

第 39 回 幹 事 会

平成 19 年 6 月 21 日

日 本 学 術 会 議

配布資料

- 資料 1 議事次第
- 資料 2 出席者一覧
- 資料 3 非公開審議事項
- 資料 4 第38回幹事会議事要旨
- 資料 5 諸報告事項
- 資料 6 審議事項
- 資料 9 対外報告「医師の偏在問題の根底にあるもの 提言：量から質の医療への転換による克服」
- 資料 10 対外報告「学協会の機能強化のために」
- 資料 11 対外報告「第二報告：新しい太陽系像について 及び 第三報告：冥王星型天体及び準惑星について」

- 参考 1 第4回中高生南極北極オープンフォーラム - 中学生・高校生の提案を南極・北極へ
- 参考 2 今後の予定

第 39 回幹事会議事次第

日 時 平成 19 年 6 月 21 日 (木) 14:00 ~

議 題

非公開審議事項

1 委員会関係

- ・ 科学と社会委員会の委員の候補者の決定 (提案 1)
- ・ 国際委員会における分科会の設置及び委員の決定 (提案 2)
- ・ 分野別委員会における分科会、小委員会の設置及び委員の決定 (提案 3)
- ・ 連携会員の辞職の承認 (提案 4)
- ・ 基礎生物学委員会、応用生物学委員会、物理学委員会、地球惑星科学委員会、化学委員会、総合工学委員会合同基礎科学の大型計画のあり方と推進方策検討分科会の設置期間の延長 (提案 5)

2 その他

前回幹事会以降の諸報告

審議事項

1 対外報告

- ・ 対外報告 「医師の偏在問題の根底にあるもの 提言：量から質の医療への転換による克服」 (提案 8)
- ・ 対外報告 「学協会の機能強化のために」 (提案 9)
- ・ 対外報告 「第二報告：新しい太陽系像について 及び 第三報告：冥王星型天体及び準惑星について」 (提案 10)

2 規則等の改正

- ・ 水・食糧と持続可能な社会委員会の設置及び設置要綱案 (提案 11)

3 団体の指定

- ・ 日本学術会議協力学術研究団体の指定 (提案 12)
- ・ 学術刊行物の審査 (提案 13)

4 国際会議関係

- ・ 平成 19 年度代表派遣の変更 (提案 14)

5 シンポジウム等

- ・ シンポジウム 「科学技術創造国推進を担う学協会の改革と機能強化」 (提案 15)
- ・ 日本学術会議中部地区会議公開学術講演会 (提案 16)
- ・ 公開講演会 「わが国における畜産技術開発研究の展開と今後の発展方向」 (提案 17)
- ・ 市民公開シンポジウム 「21 世紀の健康づくりと安全・安心な社会」 (提案 18)
- ・ 第三部公開シンポジウム 「現代科学と技術の最前線」 (提案 19)
- ・ シンポジウム 「21 世紀を豊かに生きるための科学技術の智」 の開催 (提案 20)
- ・ 日本学術会議シンポジウム 「イノベーションをよぶ分析技術」 (提案 21)
- ・ 公開シンポジウム 「より良き立法はいかにして可能かー立法の実践・制度・哲学を再考するー」 の開催 (提案 22)
- ・ 公開シンポジウム 「細胞から生命の営みを探る～いま、なぜ細胞の研究か！～」 (提案 23)
- ・ 公開シンポジウム 「脱タバコ社会をめざす」 (提案 24)
- ・ シンポジウム 「第 4 回中高生南極北極オープンフォーラム」 の開催 (提案 25)

6 後援

- ・ 国内会議 (提案 26)

その他

資料 2

第 3 9 回 幹事会 (6 月 2 1 日) 出席者一覧

会 長	金 澤 一 郎
副会長	浅 島 誠
副会長	鈴 村 興太郎
副会長	土 居 範 久

第一部 部長	広 渡 清 吾
副部長	佐 藤 学
幹事	江 原 由美子
幹事	小 林 良 彰

第二部 部長	唐 木 英 明
副部長	北 島 政 樹
幹事	鷺 谷 いづみ

第三部 部長	海 部 宣 男
副部長	小 林 敏 雄
幹事	河 野 長
幹事	大 垣 眞一郎

事務局 谷 口 局 長

諸 報 告 事 項

第1 前回幹事会以降の経過報告

- | | |
|------------|------|
| 1 会長等出席行事 | P. 1 |
| 2 審議付託等 | P. 1 |
| 3 委員会委員の辞任 | P. 3 |

第2 各部・各委員会等報告

- | | |
|------------------|------|
| 1 部会の開催とその議題 | P. 3 |
| 2 機能別委員会の開催とその議題 | P. 3 |
| 3 分野別委員会の開催とその議題 | P. 5 |
| 4 総合科学技術会議報告 | P. 9 |

第1 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
5月30日(水)	国交大臣への答申	金澤会長、鈴木副会長、濱田委員長、谷口局長 信濃参事官
6月12日(火) ～6月18日(日)	第21回太平洋学術会議	金澤会長、浅島副会長、土居副会長、谷口局長、須江次長、村田参事官、
6月14日(木) ～6月16日(土)	第7回アジア学術会議	金澤会長、浅島副会長、土居副会長、谷口局長、須江次長、村田参事官他
6月16日(土) ～6月17日(日)	第5回産学官連携推進会議	鈴木副会長

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議・付託先
第2回「革新的シミュレーションソフトウェアの研究開発」シンポジウムの後援について	東京大学生産技術研究所所長	第三部
「応用物理」創刊75周年記念イベント開催の後援について	社団法人 応用物理学会会長	第三部
「日本熱物性シンポジウム」の後援について	日本熱物性学会会長	第三部
第3回国際O-CHA学術会議の後援について	第3回国際O-CHA学術会議組織委員 組織委員長	各部
「イノベーション・ジャパン2007-大学見本市」の後援について	日経BP社 代表取締役社長	各部
「機械の日」・「機械週間」の後援について	社団法人 日本機械学会会長	第三部
「第48回大気環境学会年会」の後援について	社団法人 大気環境学会会長	第二部 第三部
「2007年度日本地理教育学会第57回大会」の後援について	日本地理教育学会会長	第一部 第三部
第9回日本感性工学会大会の後援について	日本感性工学会会長	第三部

3 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
第1回野口英世アフリカ賞	各部	推薦見送り
Millennium Technology 賞	各部	照会中

4 国際会議の開催

開 催 日	会 議 名	会 場
6月14～16日	<p>第7回アジア学術会議</p> <p>【主催】 日本（SCJ）</p> <p>【参加国】 中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの9か国（インド及びモンゴルは欠席）</p> <p>【日本からの参加者】 講演者等43名及び事務局16名</p> <p>【主な内容】 金澤会長/村岡洋一事務局長補佐の議事進行による理事会、総会及びInformal Meeting 共同プロジェクトワークショップ Parallel Session A: “Gender” 原 ひろ子先生（日本）他10名 Parallel Session B: “Aquatic Environment” 楠田哲也先生（日本）他9名 Parallel Session C: “Natural Disasters” 濱田政則先生（日本）他11名 Parallel Session D: “Securing the Ocean in Asia” 栗林先生（日本）他10名 SCA/PSA合同シンポジウム ・Special Address: 秋篠宮殿下 ・基調講演： Dr. Rajendra Pachauri（インド） Prof. Leo Tan（シンガポール）</p>	<p>沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ Panel Discussion Session A: “ Energy and Environment ” モデレータ：山地憲治先生 ・ Panel Discussion Session B: “ Education and Environment ” モデレータ：春日文子先生 ・ Panel Discussion Session C: “ Water Resources ” モデレータ：桜井国俊先生 	
--	---	--

5 委員会委員の辞任

日本学術会議会則第28条第2項の規定により、下記委員会等に所属していた委員の辞任が同委員会において承認されましたので、報告します。

・農学基礎委員会 食の安全分科会 中西 友子（平成19年5月30日付）

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第三部 拡大役員会（第11回）(6月11日)

分科会の性格と対外報告について 学協会の機能強化について 若手・人材育成問題について 夏季部会について その他

2 機能別委員会の開催とその議題

科学者委員会学協会の機能強化方策検討分科会（第9回）(5月28日)

対外報告（案）について シンポジウムの開催について

科学者委員会広報分科会（第18回）(5月24日)

前回（4月26日）の議事要旨 今後の編集方針 その他（今後の会議日程の確認等）

科学者委員会（第25回）(6月5日)

- (1) 日本学術会議協力学術研究団体の指定
- (2) 日本郵政公社による学術刊行物の審査協力
- (3) 平成19年度日本学術会議主催公開講演会（第3、4回）の企画案の募集
- (4) 日本学術会議地区会議運営要綱の改正
- (5) 地区会議の活動
- (6) 学協会の機能強化方策検討等分科会の対外報告案
- (7) 学協会の機能強化方策検討等分科会シンポジウム開催案
- (8) その他（男女共同参画分科会中間報告）

科学者委員会（第26回）（6月15日）メールによる持ち回り開催

- (1) 日本学術会議中部地区会議公開学術講演会の開催について

科学者委員会男女共同参画分科会（第8回）（5月30日）

- (1) 理化学研究所における男女共同参画の取組み
- (2) アンケート調査について
- (3) 中間報告書について
- (4) その他

科学と社会委員会 科学力増進分科会 科学技術リテラシー小委員会（第4回）

（5月25日）

今後のリテラシー定着化の方針について その他

科学と社会委員会 年次報告等検討分科会（第1回）（6月5日）

役員を選出 今後の運営について その他

AASSREC 等分科会（第20期・第10回）（5月25日）

- (1) 第17回AASSREC総会(2007年9月27日～9月30日、名古屋)の開催について
- (2) その他

G8 学術会議分科会（第2回）（5月29日）

- (1) G8 学術会議について

持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2007 分科会

（第20期・第5回）（5月31日）

- (3) 会議概要について
- (4) プログラムの検討
- (5) 広報活動等について
- (6) 2008年度開催テーマ等について
- (7) その他

国際対応戦略立案分科会議（第1回）（6月7日）

- (1) 委員長の指名
- (2) 見直し調査結果報告
- (3) 今後の進め方

国際委員会アジア学術会議分科会第7回 SCA 会合担当小分科会（第20期・第6回）

（平成19年6月15日）

SCA「声明」について その他

国際委員会アジア学術会議分科会 SCA 共同プロジェクト小分科会（第20期・第3回）（平成19年6月15日）

SCA 共同プロジェクト報告書の取りまとめについて その他

G8 学術会議分科会（第3回）（6月19日）

- (1) G8 学術会議について

3 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

- (1) **哲学委員会** (第6回)(5月24日)
分科会の今後の運営について 平成19年度シンポジウムの日程、テーマおよび提題者について F I S Pへの対応について 日本哲学系諸学会連合について その他
- (2) **史学委員会 アジア研究・対アジア関係に関する検討分科会**
(第3回)(5月26日)
「大型プロジェクトとアジア史研究」に関する問題提起と討議 その他
- (3) **経済学委員会 I E H A分科会** (第2回)(5月27日)
I E H A分科会と学術会議の経緯説明 今後のI E H A分科会のありかた、および国内学会との連携の仕方についての意見交換 その他
- (4) **地域研究委員会 人類学分科会** (第8回)(6月1日)
中等教育における地理を推進するための対外報告(仮題)の検討 シンポジウム案 その他
- (5) **心理学・教育学委員会 脳と意識分科会** (第1回)(6月2日)
シンポジウムについて
・ 本日開催のシンポジウムの運営 ・ 次回の連携シンポジウムに係る検討
今後の分科会の運営について 委員の追加について
- (6) **法学委員会 立法学分科会** (第3回)(6月2日)
9月1日開催のシンポジウムについて(報告者の確定、全体テーマの設定等) 報告(井田 良委員)「刑法の分野における立法傾向と立法過程の特色」
次回以降の予定
- (7) **経営学委員会 経営リテラシー分科会** (第2回)(6月10日)
高校における経営学・商学・会計学教育の現状と課題 その他
- (8) **法学委員会 「法における公と私」分科会** (第3回)(6月12日)
活動の進め方について・問題提起(小幡純子委員、嶋津 格委員) その他
- (9) **法学委員会 「医療事故紛争処理システム」分科会** (第4回)(6月17日)
医療事故ADR制度に関する中間報告の確認 今後の検討課題について
その他
- (10) **法学委員会 「グローバル化と法」分科会** (第4回)(6月18日)
「グローバル化と法」に関する意見交換 「グローバル化と法教育」に関する意見交換 その他
- (11) **史学委員会 I U O A S分科会 I C A N A S小委員会** (第4回)(6月18日)
I C A N A Sへの今後の対応について その他
- (12) **史学委員会 I U O A S分科会** (第7回)(6月18日)
I C A N A Sへの今後の対応について その他

第二部担当

- (1) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学基礎委員会・基礎医学委員会**
合同 遺伝資源分科会 (第1回)(5月28日)
分科会役員の選出について 分科会の運営について その他
- (2) **薬学委員会 専門薬剤師分科会 (第1回)(5月29日)**
発足の経緯 委員長、副委員長、幹事の選出 専門薬剤師の現状、問題点
と将来の展望 今年の活動について その他
- (3) **健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会**
(第8回)(5月29日)
シンポジウムについて 勧告文(案)について 次回の日程 その他
- (4) **農学基礎委員会 食の安全分科会 (第3回)(5月30日)**
レギュラトリーサイエンスの在り方の検討について トキシコロジー分科会
との連携について その他
- (5) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学基礎委員会・基礎医学**
委員会・薬学委員会合同 ゲノム科学分科会 (第1回)(6月4日)
分科会役員の選出について 分科会の運営について その他
- (6) **臨床医学委員会・薬学委員会合同 臨床試験・治験推進分科会**
(第4回)(6月5日)
これまでのヒアリングのまとめ これからの分科会の進め方 提案のま
とめ方 その他
- (7) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 生物科学分科会(第3回)(6月6日)**
生物科学学会連合との共催シンポジウム(10/19)について 国際生物学
オリンピック2009日本開催について その他
- (8) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生**
物学分科会 (第5回)(6月6日)
分科会の報告書の内容について 今年度のシンポジウムの具体化について
その他
- (9) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 遺伝学分科会(第1回)(6月7日)**
分科会役員の選出について 分科会の運営について その他
- (10) **農学基礎委員会・生産農学委員会合同 C I G R分科会 (第7回)(6月8日)**
次期C I G R事務局の体制について 2011年C I G Rシンポジウムに
ついて 日本での次期事務局及びシンポジウムのC I G Rへの提案について
その他
- (11) **臨床医学委員会 血液・造血分科会 (第3回)(6月11日)**
報告書作成に向けての今後の活動方針について 次回の日程について そ
の他
- (12) **臨床医学委員会 腎・泌尿・生殖分科会 (第4回)(6月11日)**
「臨床医学会の社会的責任と裁量」 - 今後の方向性について -

(米本昌平 連携会員からの説明、質疑応答) その他

- (13) **基礎生物学委員会・農学基礎委員会・生産農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 IUMS分科会**(第4回)
基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学基礎委員会合同総合微生物科学分科会(第4回) **合同分科会**(6月12日)
日本微生物学連盟の立ち上げについて 日本微生物学連盟の会則・規約等の整備について 日本微生物学連盟の今後の活動について(立ち上げシンポジウム、IUMS 2011への関与) IUMS情報(光山委員) IUMS 2011準備状況(富田委員) 日本学会会議全般に関する説明、G8での感染症の扱いなど(春日委員) その他
- (14) **薬学委員会 生物系薬学分科会**(第2回)(6月13日)
連絡会議(ワーキンググループ)の設置について 19年度シンポジウムの検討状況について 20年度シンポジウム計画について その他
- (15) **歯学委員会 臨床系歯学分科会**(第4回)(6月13日)
臨床系歯学分科会の課題と活動について その他
- (16) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学基礎委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同 バイオインフォマティクス分科会**
(第2回)(6月15日)
バイオインフォマティクス分野への社会的提言等について その他
- (17) **基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 腫瘍分科会**(第2回)(6月15日)
副委員長、幹事の選出 腫瘍分科会の活動方針について その他
- (18) **臨床医学委員会 内分泌・代謝分科会**(第1回)(6月15日)
委員長、副委員長、幹事の選出について 今後の活動方針について その他
- (19) **健康・生活科学委員会 子どもの健康分科会**(第6回)(6月18日)
「子どもの健康」の現状と課題について 今後の進め方とスケジュールについて その他
- (20) **生産農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同 トキシコロジー分科会**
(第4回)(6月18日)
オブザーバーで出席の食の安全分科会委員のご紹介

【報告事項】

- 1) 厚生労働省食品安全部企画情報課と食の安全分科会・トキシコロジー分科会との懇談会報告
- 2) 4月27日(金)役員会(食の安全分科会との合同)報告
- 3) その他

【協議事項】

- 1) 平成19年度第1回シンポジウム開催について
 - 2) 他の分科会との連携活動について
 - 3) 今後の活動について
 - 4) その他
- (21) **臨床医学委員会 障害者との共生分科会**(第4回)(6月18日)
東京大学経済学部、東京大学バリアフリー支援室特任准教授 長瀬 修先生

- からのヒアリング「社会の障害者バリアフリーの現状と問題点について」
各小委員会からの報告 今後の作業について その他
- (22) 農学基礎委員会・生産農学委員会合同 I U S S 分科会(第3回)(6月18日)
I U S S 委員の推薦について その他
- (23) 農学基礎委員会 農業と環境分科会(第8回)(6月20日)
空間緑化関係の対外報告(要約版)の検討について 参考資料の検討について
その他
- (24) 農学基礎委員会 農業生産環境工学分科会(第6回)(6月20日)
人工降雨関係の対外報告の検討について 農業教育関係の課題検討について
生物環境調節関係の課題検討について その他

第三部担当

- (1) 環境学委員会 自然環境保全再生分科会(第5回)(5月28日)
自然環境保全再生分科会での今後の審議について その他
- (2) 総合工学委員会 総合工学企画分科会(第3回)(5月29日)
分科会設置に関する報告 総合工学企画分科会の運営方法について 今後の活動について 意見の表出方法について 若手人材育成問題について(第三部拡大役員会からの宿題) その他
- (3) 総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会(第2回)(5月29日)
知の統合に向けて - 化学工学の視点から 知の統合をめぐる学術動向と工学基盤としての課題 その他
- (4) 総合工学委員会(第6回)(5月29日)
総合工学委員会の現在までの活動 総合工学委員会各分科会等の活動報告
第三部会、今後の活動について その他
- (5) 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 I U T A M 分科会
(第6回)(5月30日)
理論応用力学講演会について その他
- (6) 数理科学委員会 数学教育分科会(第3回)(6月2日)
統計教育の改善について 大学での数学教育について(教養教育、数学科の教育、教員養成系大学での数学教育) その他
- (7) 地球惑星科学委員会(第15回)(6月6日)
課題別委員会の方向性と枠組みについて その他
- (8) 地球惑星科学委員会 I G U 分科会(第3回)(6月11日)
今後の活動内容について その他
- (9) 機械工学委員会 製品設計の科学分科会(第1回)(6月14日)
委員長、幹事等の選出 今後の分科会の活動の進め方について その他
- (10) 土木工学・建築学委員会 社会基盤ストックの持続性向上のための技術と政策分科会(第2回)(6月19日)

- 話題提供 審議項目の絞り込みについての意見交換 その他
- (11) 土木工学・建築学委員会 建設と社会分科会 (第7回)(6月19日)
小委員会報告 今後の活動について その他
- (12) 情報学委員会 セキュリティ・ディペンダビリティ分科会 拡大役員会
(第1回)(6月21日)
今後の活動について その他

4 総合科学技術会議報告

1 本会議

- *第68回 6月14日
- (1) 平成20年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針(案)について
(2) 競争的資金の拡充と制度改革の推進について
(3) 最近の科学技術の動向
(4) その他

2 専門調査会

- *第65回 評価専門調査会 6月1日
- (1) 評価システム改革の推進について

- *第6回 基本政策推進専門調査会 6月7日
- (1) 競争的資金の拡充と制度改革の推進等について
(2) 科学技術外交の推進に関するワーキンググループについて
(3) イノベーション25について
(4) その他

- *第44回 生命倫理専門調査会 6月12日
- (1) ニューロエシックスの現状について

3 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・ 5月31日 *会長出席
- ・ 6月5日 *会長出席

- ・ 6月 7日 *会長出席
- ・ 6月14日
- ・ 6月21日 *会長出席

審 議 事 項

(声明等)

- 提案 8 对外報告 「医師の偏在問題の根底にあるもの 提言：量から質の医療への転換による克服」 P. 1
- 提案 9 对外報告 「学協会の機能強化のために」 P. 2
- 提案 10 对外報告 「第二報告：新しい太陽系像について 及び 第三報告：冥王星型天体及び準惑星について」 P. 3

(規則等の改正)

- 提案 11 水・食糧と持続可能な社会委員会の設置及び設置要綱案 P. 4

(団体の指定)

- 提案 12 日本学術会議協力学術研究団体の指定について P. 9
- 提案 13 学術刊行物の審査について P. 11

(国際会議関係)

- 提案 14 平成 19 年度代表派遣の変更について P. 12

(シンポジウム等)

- 提案 15 シンポジウム「科学技術創造国推進を担う学協会の改革と機能強化」 P. 14
- 提案 16 日本学術会議中部地区会議公開学術講演会 P. 16
- 提案 17 公開講演会「わが国における畜産技術開発研究の展開と今後の発展方向」 P. 17
- 提案 18 市民公開シンポジウム「21世紀の健康づくりと安全・安心な社会」 P. 19
- 提案 19 第三部公開シンポジウム「現代科学と技術の最前線」 P. 21
- 提案 20 シンポジウム「21世紀を豊かに生きるための科学技術の智」の開催 P. 22
- 提案 21 日本学術会議シンポジウム「イノベーションをよぶ分析技術」 P. 23
- 提案 22 公開シンポジウム「より良き立法はいかにして可能かー立法の実践・制度・哲学を再考するー」の開催 P. 24
- 提案 23 公開シンポジウム「細胞から生命の営みを探る～いま、なぜ細胞の研究か！～」 P. 25
- 提案 24 公開シンポジウム「脱タバコ社会をめざす」 P. 27
- 提案 25 シンポジウム「第4回中高生南極北極オープンフォーラム」の開催 P. 29

(後援)

- 提案 26 国内会議の後援 P. 30

8	
幹事会	39

提 案

対 外 報 告

医療制度分科会報告

「医師の偏在問題の根底にあるもの

提言：量から質の医療への転換による克服」

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 臨床医学委員会医療制度分科会における対外報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「対外報告」として取り扱うこと

9	
幹事会	39

提 案

対 外 報 告

「学協会の機能強化のために」

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 学協会の機能強化方策検討等分科会のこれまでの審議結果を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「対外報告」として取り扱うこと

10	
幹事会	39

提 案

対 外 報 告

「第二報告：新しい太陽系像について 及び
第三報告：冥王星型天体及び準惑星について」

- 1 提 案 者 物理学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 IAU分科会及び天文学宇宙物理学分科会のこれまでの審議結果を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「対外報告」として取り扱うこと

1 1	
幹事会	3 9

提 案

水・食糧と持続可能な社会委員会の設置及び設置要綱案について

- 1 提案者 (議案(1)について)
金澤一郎(会長)、土居範久(副会長)、唐木英明(第二部部長)

(議案(2)について)
会長
- 2 議案 (1)日本学術会議会則第十六条の「課題別委員会」として「水・食糧と持続可能な社会委員会」を置くこと
(2)「水・食糧と持続可能な社会委員会」運営要綱について、別紙のとおり決定すること。
- 3 提案理由 (1)水と食糧の課題について、幅広い学術分野から検討し、審議から得られた知見を各国の学術界と協力して世界に発信することによって、持続可能な社会の実現へ学術界として貢献するため。
(2)日本学術会議会則第十六条の「課題別委員会」として提案した「水・食糧と持続可能な社会委員会」の設置に当たり、設置要綱を定める必要があるため。

日本学術会議の運営に関する内規（平成 17 年 10 月 4 日 日本学術会議第 1 回幹事会決定）
別表第 2（第 11 条関係）

平成 19 年 6 月 21 日

日本学術会議会長 殿

課題別委員会設置提案書

日本学術会議が科学に関する重要課題、緊急的な対処を必要とする課題について審議する必要があるため、日本学術会議の運営に関する内規第 11 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり課題別委員会の設置を提案します。

記

1 提案者 金澤一郎（会長）、土居範久（副会長）、唐木英明（第二部部長）

2 委員会名 水・食糧と持続可能な社会

3 設置期間 平成 19 年 6 月 21 日 から 平成 20 年 8 月 31 日まで

4 課題の内容

(1) 課題の概要

持続可能な開発に関するヨハネスブルグ宣言（2002 年）は、地球環境の悪化（生物多様性の喪失や水及び海洋の汚染など）を指摘し、世界の持続可能な開発と人間の尊厳のための基本的な要件として、清浄な水、衛生、適切な住居、エネルギー、保健医療、食糧の保障および生物多様性の保全の整備を掲げている。しかし、世界でのさまざまな活動にも関わらず、国連のミレニアム・ディベロップメント・ゴール（MDG）が対象とするような低い衛生環境の地域での改善は十分ではなく、また、経済的にある程度以上発展した地域においても、環境と経済の開発の両立は困難な課題に直面している。水および食糧の課題は、これらの基本的な要件や困難な課題と直接深く関係しており、また、全地球的気候変動の影響も大きく受ける。水と食糧に関する科学と学術分野から世界の政策への大きな貢献が求められている。

(2) 審議の必要性和達成すべき結果

水と食糧の課題は、上記「課題の概要」に示したように、世界が直面する重要なさまざまな課題に関係しており、幅広い学術分野にわたる検討と最新の知見の総合が必要である。このような課題の審議は日本学術会議の責務である。

審議から得られた知見を、各国の学術界と協力して世界に発信し、持続可能な社会の実現へ学術界として貢献する。

- (3) 日本学術会議が過去（又は現在）行った関連する報告等の有無（ 有の場合、それとの整合性）
関連する報告などは多数ある（別表参照）。
但し、水および食糧の世界的課題に関してとりまとめた提言は見あたらない。
- (4) 政府機関等国内の諸機関、国際機関、他国アカデミー等の関連する報告等の有無（ 有の場合、それとの関係）
国連をはじめ多くの機関でさまざまな報告が発信されている。
しかし、持続可能な社会の概念が提唱されて後、水および食糧を総合して、多分野の学術分野から考察を加えた提言はない。
- (5) 各府省等からの審議要請の有無（ 有の場合、具体的に）
なし。

5 審議の進め方

- (1) 課題検討への主体的参加者
土居範久（副会長）、唐木英明（第二部部長）、宮崎毅（連携会員）、大垣眞一郎（会員） ほか。
- (2) 必要な専門分野及び構成委員数（各部別の委員概数を含む）
すべての専門分野。
各部会員 3 名程度に加え連携会員並びに特任連携会員、計 25 名以下。

審議の内容（予定）

- 1) 日本学術会議ならびに国内外の機関等による報告、提言等の調査
 - 2) ヨハネスブルグ宣言（2002 年）以降の世界の水と食糧に関する学術と政策の動向把握
 - 3) 水と食糧の供給に関する量と質の脆弱性・公平性の解析検討
 - 4) 水と食糧の需給と自然環境・生態系との調和に関する検討
 - 5) バイオエネルギーと水・食糧供給の調和に関する検討
 - 6) 地球規模での気候変動の不確実性に対する水・食糧研究のあり方の検討
 - 7) 水および食糧に関する学術と研究のあり方に関する検討
 - 8) 全地球的課題の解析と提言の作成
- (3) 中間目標を含む完了に至るスケジュール
平成 20 年 3 月までに中間とりまとめ
平成 20 年 8 月とりまとめ

6 その他課題に関する参考情報

わが国の水・食糧と持続可能な社会問題を検討・提言することも学術会議の使命であり、農学基礎委員会水問題分科会が現在その作業に当たっている。

別表

日本学術会議が過去(又は現在)行った関連する報告(18期以降(2000年7月22日以降))

発表年月日	種別	名称
2001年11月1日	答申	地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について
2003年6月24日	報告	真の循環型社会を求めて
2003年6月24日	報告	食品の「安全」のための科学と「安心」のための対話の推進を
2004年8月3日	答申	地球環境・人間生活にかかわる水産業及び漁村の多面的な機能の内容及び評価について
2005年2月24日	報告	水の有効利用のための先進材料研究に関する提言
2005年4月2日	声明	日本の科学技術政策の要諦
2005年6月8日	声明	Joint science academies' statement: Global response to climate change 気候変動に対する世界的対応に関する各国学術会議の共同声明(仮訳)
2005年6月8日	声明	Joint science academies' statement: Science and technology for African development アフリカ開発のための科学技術に関する各国学術会議の共同声明(仮訳)
2005年6月23日	報告	洪水・渇水に対する備え
2005年7月21日	報告	沿岸・浅海息の資源の有効利活用を目指した技術開発
2005年8月29日	報告	機械化された食生産システムにおける安全の確保に向けて
2005年9月15日	報告	人口減少時代の“豊かな”社会 - 我が国の人口・食料・エネルギー問題 -
2007年5月(予定)	答申	地球規模の自然災害の変化に対応した災害軽減のあり方について
2007年5月(予定)	報告	地球規模の自然災害の増大に対する安全・安心社会の構築

会長コメント

発表年月日	名称
2005年6月8日	「G8 サミットに向けた各国学術会議の共同声明について」

水・食糧と持続可能な社会委員会設置要綱（案）

平成 年 月 日
日本学術会議第 回幹事会決定

（設置）

第1 日本学術会議会則第16条第1項に基づく課題別委員会として、水・食糧と持続可能な社会委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（職務）

第2 委員会は、水・食糧と持続可能な社会について調査審議する。

（組織）

第3 委員会は、25名以内の会員又は連携会員をもって組織する。

（設置期限）

第4 委員会は、平成20年8月31日まで置かれるものとする。

（庶務）

第5 委員会の庶務は、事務局参事官（審議第一担当）において処理する。

（雑則）

第6 この要綱に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

12	
幹事会	39

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答することとしたい。

記

指定することを適当と認める

東欧史研究会

情報社会学会

日本ロジステックシステム学会

日本動物行動学会

北日本病虫害研究会

日本ビジネス実務学会

特定非営利活動法人日本医療マネジメント学会

関東都市学会

日本ナサニエル・ホーソン協会

日本安全教育学会

国際染色体植物学会

日本ジェンダー学会

北海道都市地域学会

日本国際保健医療学会

日本アダプテッド体育・スポーツ学会

医療経済学会

日本大ダム会議

臨床微生物迅速診断研究会

藝術学関連学会連合

富士学会

日本ペストロジー学会
東北地区歯科医学会
日本地衣学会
社団法人 日本放射線技師会
漂着物学会
社団法人 交通工学研究会
コミュニティ政策学会
日本農業工学会

指定することを適当と認めない
共生社会システム学会
日本大学口腔科学会

13	
幹事会	39

提 案

学術刊行物の審査

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 学術刊行物の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本郵政公社各支社長から照会のあった標記について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答することとしたい。

記

学術刊行物に指定することが適当である

(題 号)	(申請団体)
北海道肉牛研究会報	北海道肉牛研究会
会報	群馬県分析研究会
日本医療経済学会会報	日本医療経済学会
歴史地震	歴史地震研究会
日本創傷・オストミー・失禁 ケア研究会誌	日本ET/WOC協会
ヒューマン・ケア研究	日本ヒューマン・ケア心理学会
Weed Biology AND Management	日本雑草学会
日本災害看護学会誌	日本災害看護学会
ヘーゲル哲学研究会	日本ヘーゲル学会
ビタミン	日本ビタミン学会
比較生活文化研究	日本比較生活文化学会
日本外傷学会雑誌	日本外傷歯学会

学術刊行物に指定することが適当でない

(題 号)	(申請団体)
日大口腔科学	日本大学口腔科学会

14	
幹事会	39

提 案

平成19年度代表派遣の変更(6~9月実施分)

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり変更すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第21条第2項及び附則第3項の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

(派遣実施計画の変更等)

- 第21条 関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画若しくは派遣者の変更をすべき事情が生じた場合は、その理由を付して速やかに会長に通知しなければならない。
- 2 会長は、前項の規定による通知があった場合は、理由を付して改めて幹事会の承認を得るものとする。ただし、やむを得ない事由により事前に幹事会の承認が得られない場合は、事後に追認を求めるものとする。

附 則

- 3 平成19年度国際学術交流代表派遣実施計画に係る代表派遣については、なお従前の例による。

別紙

会議名称	派遣期間(会期分)	開催地(国)	派遣者	変更内容	変更理由
国際農業工学会(CIIGR)国際農業工学会2007年幹部会及び関連会議	7月1~3日	グラスゴー(英国)	前川 孝昭	派遣者の変更	派遣者の都合のため
	7月1~4日				
国際農業工学会(CIIGR)国際農業工学会2007年幹部会及び関連会議	7月2~5日	グラスゴー(英国)	佐藤 洋平 木谷 収	派遣者の変更	派遣者の都合のため
	7月1~5日				
国際測地学地球物理学連合(IUGG)第24回 国際測地学地球物理学連合総会	7月2~13日	ペルージャ(イタリア)	上出 洋介	派遣期間の変更	派遣者の都合のため
	7月1~8日				
国際純正・応用物理学連合(IUPAP)国際純粋・応用物理学連合C19会議 第18回一般相対論と重力国際会議	7月8~14日	シドニー(オーストラリア)	佐々木 節	派遣期間の変更	派遣者の都合のため
	7月8~13日				
太陽地球系物理学・科学委員会(SCOSTEP)理事会及び総会	7月14~16日	ペルージャ(イタリア)	藤井 良一	派遣期間の変更	派遣者の都合のため
	7月6~8日				
国際純正応用化学連合(IUPAC)述語、命名法および記号に関する部会間委員会	8月4~8日	トリノ(イタリア)	荻野 博	派遣期間の変更	派遣者の都合のため
	8月4~12日				
国際純正応用化学連合(IUPAC)高分子部門(第 部門) 部門委員会	8月4~12日	トリノ(イタリア)	澤本 光男	派遣期間の変更	派遣者の都合のため
	8月4~9日				
国際理論応用力学連合(IUTAM)理事会	8月17~20日	北京(中国)	神部 勉	派遣期間の変更	派遣者の都合のため
	8月16~23日				
国際地理学連合(IGU)執行委員会	9月25~30日	サンディエ(フランス)	田邊 裕	派遣場所・派遣期間の変更	主催者の都合のため
	10月11~16日	雲台山(中国)			

15	
幹事会	39

提 案

シンポジウム「科学技術創造立国推進を担う学協会の改革と機能強化」 - 科学者技術者コミュニティの学協会の課題と戦略 - の開催

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記のシンポジウムについて、下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議、日本学術振興会、科学技術振興機構
2. 日 時 平成19年7月4日(水) 13:00～17:30
3. 場 所 日本学術会議 講堂
4. 趣 旨

第3期科学技術基本計画でシステム改革が打ち出され、日本の科学者技術者コミュニティである学協会の社会的役割もクローズアップされた。

特に、科学技術の国際競争力強化で情報発信などは最重要事項であり、その改革に各学協会は取り組んでいる。

学協会の重要なミッションは、研究成果を発表できる場を設け、我が国の科学技術活動が国際的に認知、評価され、その結果において、世界一流の人材や最新の情報が我が国に結集するようにすることである。そのために各学協会は、連合化を模索するなどの改革に取り組みながら存在感のある学協会を目指している。

このシンポジウムでは、科学技術創造立国推進を担う学協会の改革と強化に向けて、我が国の科学技術創造立国推進を担う学協会の強化の戦略を討議する。

5. プログラム

【総合司会】 日本工学会 副会長・日本学術会議会員 池田 駿介
開催にあたって

【主催者挨拶】 日本学術会議 会長 金澤 一郎
日本学術振興会 理事長 小野 元之

【来賓挨拶】 総合科学技術会議 議員・
日本学術会議連携会員 相澤 益男
文部科学省 研究振興局長 徳永 保

特別講演

内閣特別顧問・日本学術会議連携会員 黒川 清
「公益法人制度改革の現状と今後の見通し」
内閣府 公益認定等委員会事務局 参事官 佐伯 修司

パネルディスカッション

【司会】 科学技術振興機構 理事
日本学術会議会員 北澤 宏一

【パネリスト】 お茶の水女子大学 理事・副学長
日本学術会議会員 内田 伸子
日本化学会 常務理事 太田 暉人
日本工学会 会長
日本学術会議会員 岸 輝雄
国立情報学研究所 顧問 末松 安晴

日本農学会 会長
日本学術会議連携会員 鈴木 昭憲
日本学術会議 副会長 鈴村興太郎
日本医学会 会長 高久 史磨

特別講演

科学技術振興機構 顧問
日本学術会議連携会員 阿部 博之

まとめ

日本学術会議 副会長 浅島 誠

閉会の辞

科学技術振興機構 理事長 沖村 憲樹

以上

16	
幹事会	39

提 案

日本学術会議中部地区会議 公開学術講演会の開催

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議中部地区会議
- 2 日 時 平成19年7月20日(金) 13:00~16:00
- 3 会 場 富山大学 黒田講堂会議室(富山県富山市)
- 4 次 第
 - (1) 開会挨拶
西頭 徳三(富山大学長)
 - (2) 日本学術会議第150回総会報告
後藤 俊夫 中部地区会議代表幹事
 - (3) 科学者との懇談
 - (4) 講演会
 - ・講演「唾液で測るあなたのストレス度 - 良いストレスと悪いストレス - 」
山口 昌樹(富山大学大学院理工学研究部准教授)
 - ・講演「海洋化学からみた地球温暖化の現況」
張 勁(富山大学大学院理工学研究部准教授)
 - (5) 閉会挨拶
未 定

17	
幹事会	39

提 案

公開講演会「わが国における畜産技術開発研究の展開 と今後の発展方向」の開催

- 1 提 案 者 生産農学委員会委員長
- 2 議 案 標記公開講演会を下記のとおり開催すること

記

- 1 主 催：日本学術会議生産農学委員会畜産学分科会、独立行政法人畜産草地研究所
- 2 日 時：平成19年7月25日（水）10：30～17：30
- 3 場 所：つくば国際会議場（エポカルつくば）茨城県つくば市
- 4 分科会の開催：畜産学分科会を会場において開催
- 5 次 第：

開催趣旨

わが国の体系的な畜産技術開発研究が畜産試験場において開始されてから九十有余年が経過した。その間、昭和31年農林水産技術会議事務局の発足や平成13年独立行政法人化等の国立研究機関体制変革の中で、畜産業の展開を支えるべく種々の技術開発が行われてきた。現在、穀物価格の高騰、WTO・EPA/FTA交渉の進展など、世界経済のグローバル化の波の中でわが国の畜産業のあり方は大きなターニングポイントを迎えるに至っている。この状況の中で、畜産技術研究の連携の強化とより一層の重点化と効率化に資するべく、畜産技術開発に関わる大学、独法、公設研究機関の研究者が参集し、これまでの研究展開を総括し今後の研究発展方向を議論する。

プログラム：

- 挨拶：柴田正貴（独立行政法人畜産草地研究所長、日本学術会議連携会員、
日本学術会議畜産学分科会副委員長）
----- 10:30-10:50
- 第1部（講演会）司会：松本光人（独立行政法人畜産草地研究所企画調整部長）
- 1) 基調講演 畜産技術研究90年の歴史と将来への期待
 - (1) 国立研究機関における技術開発 ----- 10:50-11:30
演者：森地敏樹（元日本大学教授）
 - (2) 大学における畜産学研究 ----- 11:30-12:10
演者：林良博（東京大学大学院農学生命科学研究科教授、

日本学術会議会員、日本学術会議畜産学分科会委員)

2) 専門分野における研究の展開

(1) 育種・環境分野について ----- 13:30-14:00

演者：渡邊昭三(元鹿児島大学教授)

(2) 栄養・飼養・飼料分野について ----- 14:00-14:30

演者：阿部 亮(日本大学生物資源科学部動物栄養科学教授)

(3) 繁殖分野について ----- 14:30-15:00

演者：佐藤英明(東北大学大学院農学研究科教授、
日本学術会議連携会員、日本学術会議畜産学分科会委員)

(4) 草地分野について ----- 15:00-15:30

演者：雑賀 優(岩手大学大学院農業生命科学科教授)

第2部 パネルディスカッション畜産技術研究の将来展開 -----15:50-17:25

司会：矢野秀雄(独立行政法人家畜改良センター理事長、
日本学術会議会員、日本学術会議畜産学分科会委員長)

閉会の挨拶：矢野秀雄(独立行政法人家畜改良センター理事長、
日本学術会議会員、日本学術会議畜産学分科会委員長)

-----17:25-17:30

1 8	
幹事会	3 9

提 案

市民公開シンポジウム『21世紀の健康づくりと安全・安心な社会』

- 1 提案者 第二部部長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1 主 催 日本学術会議第二部
北海道大学
札幌医科大学
- 2 後 援 北海道，札幌市，札幌医科大学学術振興会，日本学術協力財団（予定），
日本医歯薬アカデミー，日本農学アカデミー，
北海道新聞社，朝日新聞社北海道支社，毎日新聞社北海道支社，
読売新聞社北海道支社，NHK 札幌放送局
- 3 日 時 平成 19 年 7 月 30 日（月） 13:30～17:00
- 4 場 所 北海道大学 学術交流会館 講堂（札幌市北区北 8 条西 5 丁目）
- 5 部会の開催
第二部会及び第二部拡大役員会を 7 月 30 日（月） 31 日（火）に北海道大学（札幌市）
において開催
- 6 次 第
 - (1) 開催趣旨
生涯を通して健康に暮らせる安全・安心な社会は，だれもが一番望んでいることです。日進月歩を遂げる医療技術，予防を重視した健康づくり，食料の安全性は最近関心の高まりをみせています。日本学術会議では北海道大学，札幌医科大学と共催で，「健康」と「食」に焦点をあてたシンポジウムを企画しました。科学的知見に基づいた客観的で中立公正な立場から「医療」，「健康」，「食」の現状と将来について日本を代表する科学者がわかりやすく解説します。多くの市民の方に参加頂き，健康で安全・安心な社会づくりを一緒に考えたいと思います。
 - (2) プログラム
開会あいさつ 唐木 英明 氏（日本学術会議第二部 部長）
佐伯 浩 氏（北海道大学 総長）

松澤 佑次 氏（財団法人住友病院 院長）

「メタボリック症候群とは - 内臓脂肪の驚異 - 」

北島 政樹 氏（日本学術会議第二部 副部長，国際医療福祉大学 副学長）

「患者さんにやさしい消化器癌に対する先進医療」

大野 竜三 氏（愛知淑徳大学医療福祉学部 教授）

「禁煙社会の実現のために」

休 憩

特別講演「新生日本学術会議の活動について」 金澤 一郎 氏（日本学術会議 会長）

瀬戸 皖一 氏（鶴見大学歯学部 部長）

「高齢社会における口腔保健の重要性」

加賀谷 淳子 氏（日本女子体育大学 客員教授）

「健康づくりに貢献する身体運動」

休 憩

林 良博 氏（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

「動物を介在した健康づくり」

岡田 清孝 氏（基礎生物学研究所 所長）

「遺伝子組換え植物とは」

春日 文子 氏（国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部 第三室長）

「食の安全 調理場から世界のリスクアナリシスまで」

閉会あいさつ 今井 浩三 氏（札幌医科大学 学長）

総合司会 山内 皓平 氏（日本学術会議北海道地区会議 代表幹事）

(3) 参加費：無料

(4) 問い合わせ・参加申込先

北海道大学大学院農学研究院 生物資源生産学部門 生物生産工学分野

FAX: 011-706-4800 E-mail: SCJ-symp2@bpe.agr.hokudai.ac.jp

19	
幹事会	39

提 案

日本学術会議第三部主催公開シンポジウム 「現代科学と技術の最前線」の開催

1. 提案者 第三部部長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議第三部
2. 共 催 大阪大学、朝日新聞、日本学術会議近畿地区会議
3. 日 時 平成19年8月9日（木） 15:00 ~ 18:00
4. 場 所 大阪大学中之島センター10F 佐治敬三メモリアルホール
（大阪市北区中之島4-3-53）

5. 議事次第 開催趣旨

現代の社会に生きる人たちは、ふだん科学や技術のことを気に留めることは少ないし、自分には関係ないことだと思っていることも多い。しかし実は科学や技術は人間社会を特徴付ける「文化」の重要な部分であり、日本がこれまでと同じような繁栄を続けるためには必須な基盤でもある。このシンポジウムでは、こうした点を「新しい太陽系の理解」と「ナノ工学」という二つの切り口から、一般向けにわかりやすく描いてみる。

プログラム

開会挨拶（15:00～15:10）

- ： 海部 宣男（国立天文台名誉教授、日本学術会議第三部部長）
- ： 宮原 秀夫（大阪大学学長、日本学術会議第三部会員）

司会： 小林 敏雄（財団法人日本自動車研究所副理事長・研究所長
日本学術会議第三部副部長）

講演

- （15:10～15:50）： 海部 宣男
「太陽系の惑星と冥王星」（仮題）
- （15:50～16:30）： 河田 聡（大阪大学大学院工学研究科教授）
「ナノとフォトンが創る21世紀の科学と社会」（仮題）

質疑（16:30～16:50）

閉会挨拶（16:50～17:00）

- ： 土居 範久（中央大学理工学部教授、日本学術会議副会長）

20	
幹事会	39

提 案

シンポジウム「21世紀を豊かに生きるための科学技術の智」の開催

1. 提案者 科学と社会委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 科学と社会委員会科学力増進分科会
2. 共 催 文部科学省国立教育政策研究所
3. 日 時 平成19年8月27日(月)13:00～17:10
4. 場 所 日本学術会議講堂
5. 次 第

開催趣旨：

21世紀において、日本が真に生き生きとした豊かな社会となり、国際的にも貢献できることを目指して、プロジェクト「科学技術の智」を昨年から発足させた。7つの専門部会で検討を重ね、一般的な日本の成人が身につけておくべき科学技術の基礎的な知識や考え方(科学技術リテラシー像)を整理し核となる概念、方法を提示しつつある。また、そのような基礎的素養をすべての成人が共有するための定着化についても検討をすすめている。今後は、分野を超えて統合された智の構築に向けて、広く運動を進めていく。このシンポジウムでは、これまでの成果を示し、今後の方向性を確認する。

プログラム：

開会あいさつ(13:00-13:20)：毛利 衛

(科学力増進分科会委員長、科学未来館館長、「科学技術の智プロジェクト」評議会委員、日本学術会議会員)

講 演(13:20～14:30)

- 1) 「科学技術の智プロジェクトの成果と定着化に向けて」

北原 和夫

(科学力増進分科会委員、国際基督教大学教授、「科学技術の智」プロジェクト委員長、日本学術会議連携会員)

- 2) 葛西 敬之(JR東海会長、交渉中)

「科学技術の智」プロジェクト各専門部会報告(14:40～16:25)

III 質疑応答と討論(16:25～16:55)

閉会あいさつ：有馬 朗人

(科学技術館館長、「科学技術の智プロジェクト」評議会会長、日本学術会議連携会員)

21	
幹事会	39

提 案

日本学術会議シンポジウム「イノベーションをよぶ分析技術」の開催

1. 提案者 化学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議化学委員会分析化学分科会
(社)日本分析化学会、(社)日本分析機器工業会
2. 日 時 平成19年8月31日(金) 13:00 ~ 17:00
3. 場 所 幕張メッセ国際会議場 3階 会議室
(千葉県美浜区中瀬2-1)

4. 議事次第

趣旨： 日本の分析技術、計測技術は、今後の我が国の科学にとって重要であり、第3期科学技術政策の中にも、先端分析機器開発が取り上げられている。今後の分析化学や分析技術の発展を願い、大学・産業界・国の機関が参加したシンポジウムを、日本分析機器工業会が行う分析展（幕張メッセ国際会議場）にあわせて行うこととした。このシンポジウムでは、我が国の分析化学及び計測技術の先導的役割担う有識者の方から、ご意見ご講演を頂き、今後10年後、20年後を見据えた分析技術のあり方について議論する。

プログラム：

13:00-13:15	澤田嗣郎 (JST)
13:15-13:45	北澤宏一 (JST)
13:45-14:15	原田嘉晏 (JEOL)
14:15-14:45	梅澤喜夫 (武蔵野大)
14:45-15:15	堀場厚 (堀場製作所)
15:15-15:45	石田英之 (東レリサーチ)
15:45-16:15	壽榮松宏仁 (理研播磨研究所)
16:15-16:45	小泉英明 (日立)
16:45-17:00	原口紘き (日本分析化学会)

22	
幹事会	39

提 案

公開シンポジウム「より良き立法はいかにして可能か - 立法の
実践・制度・哲学を再考する - 」の開催について

- 1 提案者 法学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議法学委員会立法学分科会
井上達夫代表・科学研究費補助金基盤研究B「立法学の公共哲
学的基盤構築」
- 2 日 時 平成19年9月1日(土) 10:00~17:00 (開場09:30)
- 3 会 場 日本学術会議講堂
- 4 次 第

開場：09:30

司会・進行：井田良（刑法・慶應義塾大学） 学術会議会員

開会の挨拶：10:00~10:10 (未定)

報告：10:10~10:40 趣旨説明+問題提起 井上達夫（法哲学・東京大学）学術会議会員

報告：10:40~11:10 憲法学の観点から 高見勝利（憲法・上智大学）

報告：11:10~11:40 立法実務の観点から 川崎政司（参議院法制局・慶應義塾大学）

報告：11:40~12:10 民法学の観点から 加藤雅信（民法・上智大学）学術会議連携会員

- - - 昼休み休憩 12:10~13:30 - - -

報告：13:30~14:00 労働法学の観点から 濱口桂一郎（労働法政策・政策研究大学院）

報告：14:00~14:30 刑法学の観点から 松原芳博（刑法・早稲田大学）学術会議連携会員

報告：14:30~15:00 法哲学の観点から 谷口功一（法哲学・首都大学東京）

- - - 休憩 15:00~15:15 - - -

コメント 15:15~15:35 西原博史（憲法・早稲田大学）学術会議連携会員

コメント 15:35~15:55 山本和彦（民事訴訟法・一橋大学）学術会議連携会員

パネル・ディスカッション：15:55~16:55 (コーディネーター 井田良)

閉会の挨拶：16:55~17:00 (未定)

閉会：17:00

23	
幹事会	39

提 案

公開シンポジウム

「細胞から生命の営みを探る～いま、なぜ細胞の研究か！～」の開催

- 1 提 案 者 基礎生物学委員会委員長、応用生物学委員会委員長、
基礎医学委員会委員長
- 2 議 案 標記公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1 . 主 催：日本学術会議 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同
細胞生物学分科会
日本学術会議 基礎医学委員会 形態・細胞生物医科学分科会
- 2 . 後 援：日本解剖学会、日本細胞生物学会、日本顕微鏡学会、日本組織細胞化学
学会、日本臨床分子形態学会、医歯薬科学アカデミー
- 3 . 日 時：平成19年9月8日(土) 13:00～ 17:20
- 4 . 場 所：東京大学小柴ホール
- 5 . 分科会の開催：分科会を会場において開催予定
- 6 . 次 第

開催趣旨

生命科学の進歩にとって、生命の基本単位である細胞の営みを理解することは必要不可欠であることは言うまでもない。しかし、昨今の研究の流れとして、応用的な研究が重視され、その応用研究を支える基礎研究の重要性に目が向きにくくなっている。この流れを背景にして、若い学生の目も応用的な分野に向きがちである。そこで、本シンポジウムは、主として、これから研究の世界に入ろうとしている学部学生を対象にして、細胞研究のおもしろさ、重要性を理解してもらい、将来の細胞生物学、形態学を担う研究者を発掘することを目的として開催する。

開会挨拶：廣川 信隆（東京大学医学部教授、同大学院医学系研究科教授、日本学術会議
会員、日本学術会議形態・細胞生物医科学分科会委員長）

司 会：米田 悦啓（大阪大学大学院生命機能研究科教授、日本学術会議連携会員、
日本学術会議細胞生物学分科会委員）

講 演（13:05～16:45）

1) 13:05～13:45

大隅 良典（自然科学研究機構基礎生物学研究所教授、日本学術会議連携会員、
日本学術会議細胞生物学分科会副委員長）

「細胞の見事なりサイクルシステム、オートファジーの持つ役割」

2) 13:45 ~ 14:25

中野 明彦 (東京大学大学院理学系研究科教授、日本学術会議連携会員、
日本学術会議細胞生物学分科会委員)
「細胞小器官ゴルジ体の謎を解く」

3) 14:25 ~ 15:05

藤本 豊土 (名古屋大学大学院医学系研究科教授、日本学術会議連携会員、
日本学術会議形態・細胞生物医科学分科会委員)
「電子顕微鏡で脂質超分子構造をみる」

15:05 ~ 15:25 休憩

4) 15:25 ~ 16:05

黒岩 常祥 (立教大学大学院理学研究科極限生命情報研究センター センター長・
特任教授、日本学術会議会員、日本学術会議細胞生物学分科会委員長)
「地球環境を支える葉緑体の1個の分裂マシーンを"観る"、"とる"、"掴む"」

5) 16:05 ~ 16:45

廣川 信隆 (東京大学医学部教授、同大学院医学系研究科教授、日本学術会議会員、
日本学術会議形態・細胞生物医科学分科会委員長)
「ミクロの運び屋"分子モーター"が開く未知の世界：細胞から生命を観る」

フリーディスカッション (16:45 ~ 17:15)

~これから細胞生物学を目指す君たちへ、君たちから~

閉会挨拶：黒岩 常祥 (立教大学大学院理学研究科極限生命情報研究センター センター
長・特任教授、日本学術会議会員、日本学術会議細胞生物学分科会委員長)

参加登録不要

24	
幹事会	39

提 案

公開シンポジウム「脱タバコ社会をめざす」の開催日時の変更

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
歯学委員会委員長
2. 議 案 5月幹事会で承認を得ている標記シンポジウムの開催日時を変更し、下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会、歯学委員会病態系歯学分科会
2. 共 催 (社)日本口腔外科学会、愛知学院大学
3. 後 援 医歯薬アカデミー、NPO 法人アジア対口腔がん協会 (AFOC)
4. 日 時 平成19年9月30日(日)13:00~15:30
(変更前 9月29日(土)17:00~19:00)
5. 場 所 名古屋市国際会議場白鳥ホール
6. 委員会等の開催
公開シンポジウム開催時に同会場(名古屋市)において脱タバコ社会の実現分科会及び病態系歯学分科会を開催予定

7. 次 第 開催趣旨

わが国において、2002年の健康増進法の施行を機に分煙化が急速に進み、その有害性についての知識も広く一般に知られるようになり、それを裏付けるように成人喫煙率も近年減少傾向を辿っています。とはいえ減少率もわずかであり、禁煙に向けた動きが急速に広まっているとは云い難いのが現状です。

平成16年に政策提言「禁煙から脱たばこへ」が日本学術会議に承認され、禁煙はもとより、ガムタバコの低年齢層の広がりの防止を訴えました。新生日本学術会議の脱タバコ社会の実現分科会において、さらにいろいろな角度から日本を脱タバコ社会に

向けて取り組んでおります。

この度、共催として（社）日本口腔外科学会第52回総会・学術大会が開催時を機会に、禁煙をテーマとした市民公開シンポジウムに賛同いたしました。（社）日本口腔外科学会は、タバコ対策委員会を設置し、日本循環器学会等の9学会合同で禁煙ガイドラインの策定を行い、禁煙・脱タバコの啓蒙活動を行うなど以前より禁煙運動に取り組んできており、日本学術会議は各方面に発信していくことが望ましいと考えております。

同シンポジウムでは、喫煙の有害性の啓蒙から禁煙指導を含めた講演およびディスカッションを行い、参加者の理解を高めることを目的としております。

(1) コーディネーター 瀬戸 皖一 鶴見大学歯学部長、第二部会員

(2) 演題・演者等

・「歯周病の進行に及ぼす喫煙の影響」

愛知学院大学歯学部長、日本学術会議連携会員 野口俊英

・「禁煙治療制度の現状と評価」

大阪府立成人病センターがん相談支援センター所長、日本学術会議連携会員
大島 明

・「喫煙は病気、喫煙者は患者」

兵庫県立尼崎病院 病院長、日本学術会議連携会員 藤原 久義

・「脱タバコ社会実現のための、日本学術会議の取り組み」

愛知県がんセンター名誉総長、日本学術会議会員 大野 竜三

・「脱タバコ社会推進に国境はない」

(社)日本口腔外科学会理事長、日本学術会議会員 瀬戸 皖一

1) 開会挨拶 (5分)

2) 講演 各演題 20分(合計1時間40分)

3) ディスカッション30分

4) 閉会挨拶 (5分)

25	
幹事会	39

シンポジウム「第4回中高生南極北極オープンフォーラム」の開催について

1. 提案者 地球惑星科学委員会委員長
2. 議案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主催 日本学術会議地球惑星科学委員会
国立極地研究所
- 2 後援 文部科学省、国立科学博物館、日本極地研究振興会、朝日新聞社、
(予定) 全国科学博物館協議会、独立行政法人科学技術振興機構
- 3 日時 平成19年12月15日(土)
- 4 会場 国立極地研究所 講堂
- 5 次第
 - 13:00 開会 趣旨説明 審査講評
 - 13:15 第一部 中学生・高校生からの提案(優秀提案発表の部)
優秀提案の表彰、提案の口頭発表
 - 16:15 第二部 中学生・高校生からの提案(ポスター発表の部)
提案の研究目的、方法などをポスターにし、参加者に自分達の
発表を説明
 - 17:15 閉会

展示等 1階展示ロビーに、雪上車、南極隕石などを展示。

国立極地研究所の実験室、低温室、資料室など、研究の最前線の現場を見学。

6 趣旨等

国際極年を機会に、次代を担う青少年が、極地を通じて地球や環境の理解を深めるとともに、中学校あるいは高校での新たな理科環境教育の一翼を担うことを目的とし、中学生・高校生からの極地研究の提案を公募する。この内、最優秀提案の研究は、日本南極地域観測隊または北極観測グループが実行し、その成果は担当した研究者が提案校に報告する。南極での研究については、昭和基地と学校とをテレビ会議システムで結び直接生徒に報告することも計画している。

「中高生南極北極オープンフォーラム」は、2004年度に開始し、国際極年が終了する2008年度まで5回の開催を予定しており、今年度は第4回目の開催である。

26	
幹事会	39

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

後援する

名 称 等	申 請 者	審議付託先
第2回「革新的シミュレーションソフトウェアの研究開発」シンポジウム 主催：東京大学生産技術研究所 会期：平成19年7月12～13日 場所：東京大学生産技術研究所	東京大学生産技術研究所所長	第三部
「機械の日」・「機械週間」 主催：社団法人 日本機械学会 会期：平成19年8月1日～7日 場所：日本教育会館 神田一ツ橋ホール他	社団法人日本機械学会会長	第三部
「応用物理」創刊75周年記念イベント開催 主催：社団法人 応用物理学会 会期：平成19年8月3～4日 場所：科学技術館（財団法人 日本科学技術振興財団）	社団法人応用物理学会会長	第三部

<p>「2007年度日本地理教育学会 第57回大会」 主催：日本地理教育学会 会期：平成19年8月4日～6日 場所：関西大学 千里山キャンパス政策創造部学舎</p>	<p>日本地理教育学会 会長</p>	<p>第一部 第三部</p>
<p>「第48回 大気環境学会年会」 主催：大気環境学会 会期：平成19年9月5日～7日 場所：岡山理科大学25号館(40周年記念館)他</p>	<p>社団法人大気環境学会 会長</p>	<p>第二部 第三部</p>
<p>「イノベーション・ジャパン2007-大学見本市」 主催：科学技術振興機構 会期：平成19年9月12日～14日 場所：東京国際フォーラム</p>	<p>日経BP社 代表取締役社長</p>	<p>各部</p>
<p>「日本熱物性シンポジウム」 主催：日本熱物性学会 会期：平成19年10月24日～26日 場所：北海道大学学術交流会館</p>	<p>日本熱物性学会 会長</p>	<p>第三部</p>
<p>第3回国際O-CHA学術会議 主催：第3回国際O-CHA学術会議組織委員会 会期：平成20年11月2日～4日 場所：静岡県立大学、静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」</p>	<p>第9回国際O-CHA学術会議組織委員会 委員長</p>	<p>各部</p>



国際極年2007-2008企画
第4回中高生南極北極オープンフォーラム
—中学生・高校生の提案を南極・北極へ—
2007年募集概要

国際地球観測年(IGY)から50年目の2007年から2008年にかけて、国際的な規模での極地観測が計画されています。南極や北極は、人工のノイズが少なく地球や宇宙を理解する上で絶好の観測地域ですし、科学のフロンティアなのです。学校、教室、クラブやグループなどから、南極や北極で進めたい研究計画を広く募集します。斬新なアイデアや、素朴な疑問に基づく研究提案を歓迎します。

(1) 提案の形式

研究テーマ、提案団体、目的、動機、方法、予想される結果について、「提案書の書き方」を参照して別紙の用紙に記入してください。手書きでもかまいません。

(2) 提案の締め切りと提出先、問い合わせ先

・2007年9月15日(土:消印有効)

・〒173-8515 東京都板橋区加賀 1-9-10

国立極地研究所 第4回中高生南極北極オープンフォーラム事務局

・問い合わせ先 同実行委員会委員長 渡邊研太郎

Tel: 03-3962-4590 / Fax: 03-3962-4914 / E-mail: chukou-ipy@nipr.ac.jp

・情報掲載ホームページ: http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/IPY_openf/

(3) 表彰

応募された提案は、第一線の極地研究者など有識者からなる審査委員会で審査され、最優秀賞、優秀賞、佳作として団体ならびに参加した個人を表彰するとともに記念品を贈呈いたします。なお、最優秀賞、優秀賞、佳作の内定は、**10月19日(金)**までに通知いたします。

(4) 第2回中高生極地オープンフォーラムでの提案発表

佳作となった提案は、**12月15日(土)**に開催される「第4回中高生南極北極オープンフォーラム」のポスター発表の部で、また、優秀提案(最優秀賞と優秀賞となった提案)については、同フォーラムの優秀提案発表の部で発表していただきます。

(5) 最優秀提案の南極/北極での研究の実施

日本南極地域観測隊あるいは北極観測グループに研究を委託します。

(6) 研究成果の報告

研究成果は、担当した研究者、もしくはその報告を受けたオープンフォーラム実行委員会が提案した学校に報告いたします。南極観測隊に託したテーマについては、テレビ会議によって、南極昭和基地から直接学校に報告することも計画しています。

主催: 日本学術会議地球惑星科学委員会、国立極地研究所

後援(申請中): 文部科学省、国立科学博物館、全国科学博物館協議会、

日本極地研究振興会、朝日新聞社、独立行政法人科学技術振興機構



国際極年2007-2008企画
第4回中高生南極北極オープンフォーラム
—中学生・高校生の提案を南極・北極へ—
提案書の書き方

(1) 提案書の形式

研究や実験、技術やシステム向上についての提案書(以下、単に提案書とする)の形式は自由です。表紙の用紙を参考のために用意しましたが、必要事項が含まれていれば、これも別の紙に自由な形式で書いてかまいません。また、以下でA4版用紙が参照されていますが、これは文章の量を示しているだけです。原稿用紙など、別の大きさの紙を使っても、かまいません。

(2) 提案書の締め切りと提出先、問い合わせ先

・2007年9月15日(土:消印有効)

〒173-8515 東京都板橋区加賀 1-9-10

国立極地研究所 第4回中高生南極北極オープンフォーラム事務局

問い合わせ先 同実行委員会委員長 渡邊研太郎

Tel: 03-3962-4590 / Fax: 03-3962-4914 / E-mail: chukou-ipy@nipr.ac.jp

・情報掲載ホームページ: http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/IPY_openf/

(3) 提案書は、(A)表紙(A4版で1枚)と(B)本文(A4版で3枚程度)で組み立ててください。

(A)表紙の作成には次ページの用紙を参考にしてください。

注記 * 「提案グループ名称」: 「OO 高校、2年3組」、「XX 中学、理科研究部」、「++ 町ジュニアサイエンス・クラブ」など

* 「学校の住所・電話番号」: グループが学校を母体にしなない場合や、複数の学校の生徒がグループを作っている場合にも、代表者の通学する学校について、書いてください。

* 「指導教員氏名・連絡先」: 指導者が、代表者の学校の教員で無い場合には、所属や連絡先を詳細に書いてください。その学校の教員の場合には、(差し支えない範囲で)、内線番号やメールアドレスを書いてください。指導教員が居なければ、「なし」と書いてかまいません。

* 「提案グループ・メンバーの氏名・学校名・学年」: 提案代表者についても、再掲してください。

* 提出後、誤字の変更以外の修正(例えばメンバーの入れ替え、追加や提案書の差し替え)は出来ません。

(B)本文には、必ず次の3つの項目を必ず記載してください。

・提案の目的を書いてください。

・その提案を思いついた動機を書いてください。

・その提案を南極や北極で行う方法を具体的に書いてください。A4用紙に換算して1ページ程度かそれ以上とします。

本文は、A4版にワープロで書いた場合、全項目あわせて、3枚程度を目安としてください。(手書きの場合、400字詰め原稿用紙、およそ7枚に相当します。) 図や表・写真を貼り付けてもかまいませんが、総量に含まれます。

(4) 一つのグループから2件以上の提案をする場合にも、それぞれを独立した提案として扱います。1件毎に、表紙と本体をそなえた提案書を作成してください。

(表紙に記載する項目)

提案テーマ表題

提案グループ名称

代表者氏名・学校名・学年

学校の住所・電話番号

指導教員氏名・連絡先

提案グループ・メンバーの氏名・学校名・学年

備考

日本学術会議における今後の予定

(1) 幹事会

第39回幹事会	平成19年 6月21日(木) 14:00から
第40回幹事会	平成19年 7月26日(木) 14:00から
第41回幹事会	平成19年 9月20日(木) 14:00から
第42回幹事会	平成19年10月10日(水) 総会終了後
第43回幹事会	平成19年10月11日(木) 総会終了後
第44回幹事会	平成19年10月12日(金) 委員会終了後
第45回幹事会	平成19年11月22日(木) 14:00から
第46回幹事会	平成19年12月20日(木) 14:00から
第47回幹事会	平成20年 1月24日(木) 14:00から
第48回幹事会	平成20年 2月21日(木) 14:00から
第49回幹事会	平成20年 3月13日(木) 14:00から
第50回幹事会	平成20年 4月 7日(月) 総会終了後
第51回幹事会	平成20年 4月 8日(火) 総会終了後
第52回幹事会	平成20年 4月 9日(水) 委員会終了後
第53回幹事会	平成20年 5月22日(木) 14:00から
第54回幹事会	平成20年 6月26日(木) 14:00から
第55回幹事会	平成20年 7月24日(木) 14:00から

(2) 総会

平成19年10月10日(水)から12日(金)まで	[秋の定例総会]
平成20年 4月 7日(月)から 9日(水)まで	[春の定例総会]